

市長記者会見記録

日時：2018年10月16日（火）14時～14時46分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<話題提供>

カワサキハロウィン2018の開催について（経済労働局）

<内容>

《カワサキハロウィン2018の開催について①》

【司会】ただいまより、市長会見を始めます。本日は、市政一般となっております。

初めに、市長から話題提供といたしまして、「カワサキハロウィン2018」の開催について説明いたします。それでは、市長、よろしくお願いたします。

【福田市長】 来る10月28日の日曜日に「ハロウィン・パレード」を実施いたします「カワサキハロウィン」につきまして、ご紹介させていただきます。

お手元の資料1枚目を御覧ください。

「カワサキハロウィン」は、川崎の街の魅力と活力を全国に向けて発信することを目的に、川崎駅周辺の商店街、大型商業施設及び川崎市で組織する「カワサキハロウィンプロジェクト」が主催しているイベントです。今年で22回目を迎えて、日本最大級のハロウィンイベントとして、国内はもちろん、近年では英字新聞やインバウンド向けWEBメディアにご紹介をいただくなど、海外まで広く知られるようになりました。

さて、今年度の「カワサキハロウィン」の目玉でございますが、メインイベントであります「ハロウィン・パレード」におきまして、新川通りの全6車線を使用した、カワハロ史上最大、ダイナミックなパレードを初挑戦することです。

この他にも、さらなる魅力の向上を目指し、より一層、皆様方に注目していただけるような新たな取組を取り入れておりますので、主な内容についてご説明させていただきます。

初めに、1の主なイベントでございますが、今回の目玉であります「ハロウィン・パレード」は、28日の日曜日に実施いたします。このうち新川通りにつきましては、これまでの片側3車線から両側6車線に拡大することで、これまでになく非常にエキサイティングでダイナミックなパレードにするとともに、両サイドに観覧スペースを

設けますので、観客の皆様にも、その迫力を感じていただけるものと考えております。

また、パレードにあわせて、カワサキハロウィンの特徴の1つでありますハイレベルな仮装コンテスト「ハロウィン・アワード」も行われます。

今年は、パレード参加者全2,500人が審査の対象となることができるよう、内容を大幅に見直しました。審査方法も変更し、審査員が会場内を回遊しながら審査するとともに、一般のお客様にもカワハロ公式アプリから、審査員として投票できるようになりました。

さらに、27日の土曜日に行われる「キッズパレード」でございますけれども、毎年大人気企画となっております。当日は、笑顔であふれる子どもたちや家族で大変にぎやかになります。

2枚目を御覧ください。

2の川崎の魅力を発信する取組でございますが、(1)といたしまして、今年はインバウンドへの取組を大幅に拡充しています。昨年、初めて外国人向け案内ブースを設置したところですが、今年は案内ブースを5か所に増やすとともに、川崎の誇るユニークでフォトジェニックな観光資源をめぐる川崎観光スタンプラリーや、74言語対応の音声翻訳機のレンタルなど、J R川崎駅を中心に、市内を代表する観光スポット、大型商業施設、宿泊施設などが連携して、インバウンド向けの様々なサービスを展開しますので、外国の方々をはじめ、さらに多くの皆様楽しんでいただけるものと考えております。

次に、(2)でございますが、「カワハロ・フェア」と題しまして、川崎駅周辺の商店街・商業施設がお得なキャンペーンを展開しております。「カワサキハロウィン公式アプリ」には、様々なメニューが掲載されていますので、是非、そちらも御覧いただければと思います。

3枚目を御覧ください。

ダイバーシティへの取組でございます。全ての人たちが暮らしやすい、バリアのない社会環境づくりを進める「かわさきパラムーブメント」の考え方を「カワサキハロウィン」に取り入れ、今年度は新たにかわさき基準(K I S) 認証福祉製品であります「WH I L L」、「COGY」という車椅子を利用したパレード参加も予定しております。

また、本市と包括協定を締結しておりますN P O法人ピープルデザイン研究所のご協力によりまして、昨年度に引き続き、企業への一般就労を目指している市内就労支援施設の利用者の皆さんが、就労体験として、カワハロのサポートを行います。

次に、3のその他の取組といたしまして、市内の子どもたちと交通局により、「ハロウィン装飾バス」を制作し、17日から31日に通常路線で運行するほか、27、28日には、川崎駅東口11番バス乗り場におきまして、展示を行います。

「ハロウィンといえば川崎」と言われるくらい大きなイベントになりました。

今では、全国各地でハロウィンイベントが行われるようになりましたけれども、行政も含め、地域が一体となって実施しているのが「カワサキハロウィン」の大きな特徴であると思いますので、今後とも、地域の皆様とともに、このイベントを盛り上げてまいりたいと考えております。説明は以上です。

【司会】 ありがとうございます。

それでは、市政一般とあわせまして、質疑応答をお願いいたします。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【幹事社】 すいません。何件かお伺いしたいんですが、私、今年の記憶があまりなくて、昨年って、こういうハロウィンって、メインの日ってやりましたっけ。

【市長】 ええ。やっています。

【幹事社】 やったんですね。

【市長】 ただ、かなり雨が大雨だったと記憶していますが、イベントをかなり縮小して行ったという経緯が昨年ございます。

【幹事社】 そういう意味で、今年の天気というのは、何ともまだわからない部分でありますけど、昨年在縮小された開催だったということ踏まえて、今年こそというような意気込みを何か一言いただければと思っております。

【市長】 本当に近年、いろんな所でハロウィンが、日本に定着したなという感はあるんですけども、それこそチッタさんから始まって、地道にやっていた取組が、これだけ大きくなったと。レベル感としては、規模的には日本最大級でありますし、仮装のレベルはまさに日本一と言われておりますので、そういった意味では、ハロウィンといえば川崎というふうになっていると思いますので、是非、今年もより多くの皆様のご来会をお願いしたいと思っております。

【幹事社】 すいません。私も、ちょっと枠組み自体が不勉強で大変恐縮なんですけど、市として、もう初めから、この97年から主催という形で関わっているんですか。

【市長】 いや、一番最初は川崎市は入っていません。まさに、チッタさんが独自で始められた取組が、だんだん商店街とか、私たち行政を巻き込んでというふうに、地域全体の取組として発展してきたということです。

【幹事社】 そういう意味で、自治体が、このハロウィンのイベントというのに加わ

っているケースとして、私、ほかであまり知らないので、珍しい取組なのかなと思っているんですけど、こういうイベントを自治体としてやることの意義というものを改めて教えていただけますでしょうか。

【市長】 先ほどの説明の中でも話しましたがけれども、地域の活性化とか、にぎわいというもので、川崎の地域経済の活性化というのもありますけれども、やっぱり川崎の大きなPRにもなっていると思います。非常に若い人たちが集まって、楽しんで、そして多様な方たちが楽しく参加できるイベントという意味では、シティプロモーション的にも非常に有効だなと思っています。

【幹事社】 すいません。あと、これちょっと事務方のほうにお伺いしたいんですが、今年初めてやる取組としては、どれが該当するのでしょうか。

【市長】 私からでもいいですか。

【幹事社】 はい。

【市長】 1つは6車線を全面的に使用してということになりますので、そういった意味では、今までにない迫力になるのではないかなということ。それと、インバウンドの取組として翻訳機のレンタルです。インバウンドの皆さんをかなり意識したということで、そういった意味で、事業者の皆さんにもご協力をいただいているということですね。

【幹事社】 例えば、ほかのコンテストだとか、パンフレットをちょっと見たら、賞金が50万円だとか、そういうこの手のコンテストとかもこれまでどおりですね。

【市長】 はい。対象者は去年までは事前に登録した人でないと審査対象にならなかったということですがけれども、今回はパレード参加者全員が対象になるということですので、より参加しやすいということになったと思います。また、審査する側も全員参加型という形です。

《統一地方選への対応について》

【幹事社】 なるほど。わかりました。すいません。ちょっと市政一般というか。昨日、自民党市連さんの政経文化パーティーが日航ホテルであって、伊藤副市長が代理でご出席されました。市長、ほかの公務ということがあったということで説明ありましたけれども、改めて統一地方選も近づいてきて、既存の政党との距離感というか、そういうパーティーに出席、今回、ご自身はされませんでしたけれども、政党との距離感というのは、今、どういうふうにお考えなのかというのを教えていただけますか。

【市長】 あまり、今までもこれからも政党の距離感というのは変わらないと思いま

す。各政党とも、基本的にどこに近い遠いということでもないですし、市政を前に進める大切なパートナーという意味においては、どの皆さんも緊張感のある、適度な距離感の中で連携していくというスタンスには変わりはありません。

【幹事社】 ほかの政党の、例えば、そういう市内での会合みたいなものに呼ばれた場合は、ご自身が出られれば行くし、代理の方をどなたか派遣すると。

【福田市長】 そうですね。これまでも政党のものについては、時間合えば出席していますし、それは都合がつけばという感じですかね。

【幹事社】 わかりました。はい。

《カワサキハロウィン2018の開催について②》

【幹事社】 今回、インバウンドに、ハロウィン、力を入れていらっしゃるということなんですけれども、具体的に、このハロウィン・パレード、インバウンドにどのように生かしていきたいと、どのような展望がこれにあるというふうにお考えですか。

【市長】 少なくとも、毎年毎年、川崎を訪れていただいている外国の方というのが増えてきているというのは実感としてもものすごくあります。それと「カワサキハロウィン」。先ほどご説明で申し上げましたけれど、「カワサキハロウィン」に対する知名度というのは、外国人の中でも増えてきているということですから、そういった意味でも、今年もさらに当然増えるだろうなということに対応する。そして、対応するだけでなく、さらに発信を強めていくという取組を、今回させていただいて、より多くの外国の皆さんに、この川崎を知っていただいて、さらに日常的に来ていただけるような、そういった大きなきっかけになればありがたいと思っています。

【幹事社】 実際に来た方には、こうやって案内とか充実していらっしゃると思うんですけど、来る前に、川崎を知らない人とか、まだこのハロウィンを知らない外国の方々に、今後どのように発信していきたいとお考えですか。

【市長】 いろいろ、ホームページ等々でお伝えしているという部分もあると思いますが、SNSなどいろんな形でかなり発信されていると思います。これまでも、例えば、今年あったんですが、日進町のイベントで行われたイベントなども、かなり外国の方にSNSを通じて伝わっているということもありますので、それは主催しているメンバーなどで、工夫して発信していきたいと思っています。

《消費税増税について》

【幹事社】 続いて一般質問なんですけど、正式に来年の10月から消費税の増税が、

きのう、首相、方針出されたんですけれども、実際に自治体の市長として、この増税に懸念することと期待できることがありましたら教えてください。

【市長】 2回延期されてきましたけれども、これまでもちゃんと予定どおり、しっかり実施してくださいと言ってきたので、そういった意味では粛々とその準備を進めていただきたいということです。ですから、現場感として、地域経済としては、軽減税率だとか、やや、まだどうなっちゃうんだろうというところの不安解消というのは、一刻も早くしていただかないといけないと思っていますし、是非お願いしたいというふうに思っています。

【幹事社】 幹事社からは以上です。各社、質問どうぞ。

《カワサキハロウィン2018の開催について③》

【記者】 すいません。ハロウィンの件で教えてください。今回、6車線にする理由は何なんでしょうか。

【市長】 できればやはり大規模にやりたい、もう少し迫力があつたほうが良いという声もいただいている、そういう中で、警察のご協力であつたりとか、バス事業者さんのご協力だつたりとか、こういったことの調整が今回うまくいったということです。そういった意味では、見る側にとっても、パレードする側にとっても、よりよい環境になったと思っています。

【記者】 去年までの来場者数で、何かあふれちゃったり、列が長くなっちゃったりして、何か支障などがあつて、そういう広げることの要望する声があつたというわけではないんでしょうか。

【市長】 交通の面については、いろいろご意見はあると思いますが、どうなんですかね。補足してもらってもいいですか。

【経済労働局産業振興部商業振興課長】 よろしいでしょうか。経済労働局の商業振興課長でございます。昨年度は雨が降つたため大分縮小したイベントだったんですが、先ほど市長からお話ございましたように、22回目を迎えることに当たりまして、よりダイナミックにしていきたいという思いから、実現できるかどうかわからなかつたんですけれども、6車線に挑戦してみようということが発端でございました。

バス事業者ですとか交通管理者等と協議が調つたということで、今回から6車線ということでございます。以上です。

《Bリーグ開幕について》

【記者】 わかりました。あともう1点、お願いします。

【市長】 はい、どうぞ。

【記者】 バasketボール、Bリーグの開幕戦がございました。市長も紹介されていきました。試合を観戦されて、去年までの試合と今年からの違い、お感じになるものや驚いたこと、何か具体的なものがございましたら、何点か挙げつつ、どのような感想を持たれたのか教えてください。

【市長】 そうですね。Bリーグそのものが、やはり裾野が広がってきたなということを感じますし、ブレイブサンダースファン層そのものが確実に増えているなということを感じることができた開幕戦だったと思います。正直、あれだけ、ほぼ満席のアリーナ、Basketの試合で見ることは今までなかったので、そういう意味では、選手にとっても、また観戦している私たちも大いに川崎コールで盛り上がったので、今後もっともっと盛り上がってくるだろうなど。新しいマネジメントになって、ファンサービスというのも非常に拡大していると思いますし、それが受け入れられているんだろうと思います。

【記者】 ファン層が拡大しているというのは、年齢なりということなんでしょうか。

【市長】 そうですね。これまでもスポーツパートナーとして、フロンターレと連携したイベントだったり、いろんな本市のイベントなどにも積極的に地域に出ていってくれているという取組が、やはり地道に伝わってきているんだろうなど感じますね。ですから、もともとスポーツとしてBasketをやっている人口は多いですからね。それがBリーグというものに、あるいはプロのBasketというのを見る機会が、できたということで、潜在的なものをしっかりつかまえているのではないかなと感じます。

【記者】 あえて言わせるようで恐縮でございます。何か演出方法で目を引いたものとかございますか。

【市長】 やっぱりその日の誕生日のお子さんをフィーチャーしたりとか、ユニフォームを全員に配ったりとかいう手法は、ちょっと今までのファンサービスから一段抜けたというか、そういうものを感じます。ですから、そういった意味では、単純にスポーツを見るということ、観戦ということだけじゃなくて、場の雰囲気だとか飲食も含めて、スポーツ全体を産業として、スポーツエンターテインメントとして成り立っていくんじゃないかなという機運を感じさせる日だったなと思います。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《カワサキハロウィン2018の開催について④》

【記者】 ハロウィン・パレードで、市長は参加されるのでしょうか。

【市長】 ええ。今年も仮装して参加させていただきたい。

【記者】 仮装して。

【市長】 はい。

【記者】 まだ仮装は秘密で。

【市長】 微妙な笑いが。はい。

【記者】 仮装は、どんな感じのキャラクターになるかとかは秘密でしょうか。教えていただけるようであれば。

【市長】 決まっております、テーマが「不思議の国のマジシャン」。

【記者】 すてきですね。「不思議の国のマジシャン」。

【市長】 大分笑い過ぎな方もいらっしゃいますが、実はこれ、かわさきマイスターの栗田先生という方がいらっしゃいまして、この栗田先生と、先生がやっておられる服飾学校の生徒さんたちが一緒に作っていただいたものでございます。

【記者】 服飾学校は、どちら。

【市長】 ユニバーサル服飾高等学院という学校です。

【記者】 はい。「不思議の国のマジシャン」にかける意気込みというのを教えていただけますでしょうか。

【市長】 いや、やっぱり成り切りたいと。成り切って、自らも楽しみたいし、みんなで盛り上がりたいなと思います。

【記者】 はい。ありがとうございました。

【市長】 はい。

【記者】 すいません。ハロウィンの関係で幾つかお伺いしたいんですけど。ちょっとかぶる部分もあって申し訳ないんですが、外国人の参加が増えているということで、カワハロメインに来日される方もいるというふうには聞いているんですけども、改めて外国人の参加が増えていることの受け止めと、あとその期待感というのを、まずお伺いできますか。

【市長】 やはり羽田に近いという立地優位性がある中で、もっともっと、インバウンドの人たちに来てもらいたいという思いがあります。こんなに川崎って楽しいところなんだなと。受け入れる環境として、私たちの気持ちという意味で、もっともっと努力していきたいなということもありますし、それからやっぱりこの季節、9月から12月にかけての3か月間というのは、川崎駅周辺というのは、もう毎週毎週イベン

トだらけですから、いつ来ても川崎は楽しいと思っただけのような、そういうことを知ってもら大きなきっかけにしたいと思っております。

【記者】 今、努力という話がありましたけれども、それが1つ、今年、ポケットークとかを初めて利用されるとか、そういう面でということでもいいですかね。

【市長】 そうですね。受付というか、ガイダンスというか、そういうところのご案内コーナーを増やしたということもありますし、ポケットークもそうですし。それから、いわゆる車椅子の方も参加していただけるという意味では、いろんな人が参加でき、見るだけじゃなくて、参加できるという意味でも、海外の方にも川崎市の取組を知ってもらいたいなと思っております。

【記者】 すいません。車椅子の関係なんですけれども、市として、全面的に車椅子の参加をバックアップするというのが珍しいかどうか、なかなかわからないということでは聞いてはいるんですけれども、改めて車椅子の方も、3年前から車輪の仮装もオーケーにしているというふうには聞いているんですけれども、やることの意義というか、そういうところをお伺いできますか。

【市長】 本当に今回、車椅子でもいろんなタイプの、先ほど言った「WHILL」とか「COGY」とかというふうな形で、テクノロジーでもって機会を増やしていくというふうなのが可能なんだということを示すことができるというのがありますし、そういった意味では、この車椅子参加だけじゃなくて、先ほど申し上げたような、これから一般就労に結びつきたいというふうな方への就労体験というのを、これもずっと続けてきておりますけれども、招かれる側からホストする側へというふうな、そういった取組も進めていますので、ですから、本当にみんなが楽しい中に、こういった要素を混じり込ませていくという表現がいいのかわかりませんが、このプロジェクト参加者の皆さんの気持ちだろうなというふうに思っていますので。

【記者】 はい。ありがとうございます。

最後に1点、質問というか、なかなか経済効果の出し方が難しく、出ないということでは聞いているんですけど、今後、何らかの形で、何かちょっと経済効果とか、そういう波及的なものを検討していただければなと思うんですけれども、いかがですか。

【市長】 そうですね。今年も大体13万人ぐらいというふうに入出を見込んでいますから、そういう意味では、13万人来ると、当然、いろんな消費があるわけで、単純にどういうふうに変換していくのかは、なかなか難しいものがあると思いますが、もっともっと、この経済効果が上がるように、近隣の事業者の皆さんにも、いろんなご協力、ご参加をいただきたいなと思っております。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 すいません。車椅子の方は何人ぐらい参加が見込まれるんでしょうか。

【市長】 15組を予定しております。

【記者】 15組が仮装して参加ということですね。

【市長】 はい。

【記者】 それと、事務方の方に教えていただきたいんですけども、ポケトークは何台ぐらい用意されますか。

【経済労働局産業振興部商業振興課長】 何台。申し訳ございません。ちょっと今、数字ないもので、後ほど提供させていただきます。

【市長】 はい、どうぞ。

【記者】 先ほど仮装の関係で不思議の国なんですけど。そもそもの、今回のテーマが不思議の国というものなのか。

【市長】 いえいえ。

【記者】 じゃなくて？

【市長】 私のですね。

【記者】 あ、そういうこと。何でそれなのか、よくわからないなど。

【市長】 ディズニー映画の『不思議の国のアリス』を参考にして、学生さんたちが考えてくださったと。

【記者】 市長に合うように考えてくれたということなんですね。

【市長】 はい。ちゃんとお相談いたしました。

【記者】 あと、すいません。インバウンドの関係なんですけれども、訪れてきた外国人の方は、このハロウィンのパレードに参加するというよりは、それをきっかけに、見てもらって、さらに川崎市で観光していってもらいたいということなんですか。

【市長】 意外と見に来る方も、過去の経験則的にいうと、参加されている方もいらっしゃるし、周りで見ている方も大分派手に仮装されてきている外国の方もいて、一緒にその空間を楽しんでいる外国の方がいるなど感じがしますね。ですから両方だと思います。パレードに参加するのか、あるいは見ながら自分も。その境目が、実はちょっとわからないぐらいですね。だから、見に来ているんだけど、写真を撮られる側になって撮りあったり、両方やっているの、そういう意味では両方楽しめるんじゃないかなと思います。

【記者】 外国人観光客の方を、ハロウィンをきっかけに川崎をよく知ってもらいたいということなんですけど、市内の回遊性とか宿泊施設、都内で宿泊される方もいると思

うんですけれども、そこら辺の今後の方策というのは何かございますか。

【市長】 最近、ビジネスホテルの需要というのがものすごく高くて、外国の方もすごく宿泊しているというのは実態としてございます。それによって、またどんどん宿泊施設も今できてきているという状況ですし、これからもまだ大型のホテル建設進む予定でありますし、そういった宿泊環境を整えることというのは大切なことだと思っていますので、今後も誘導に力を入れていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

《多摩川花火大会について》

【記者】 すいません。先日の花火大会のことでお伺いします。去年はちょっとゲリラ豪雨などもあって、残念な中止になってしまいましたけれども、今年は秋にずらそうとなったことで、この間、無事に開催されたんですけれども、秋に開催したことへの受け止め、ご所感と、今後に向けて、開催時期、2020年までは秋開催でというお話は聞いたんですけれども、今後に向けて、時期的にどういうものが適切か、お考えをお願いいたします。

【市長】 そうですね。今年の夏も本当に台風、ゲリラ豪雨などが相次いだことを考えると、市民の皆さん、あるいはご観覧いただく皆さんの安全面を考えると、夏に今戻すというのは、ちょっと考えられないと思います。ですから、せっかく今年から始まった秋花火という取組を、是非前向きに捉えて、秋だからこそ味わえる秋の花火のよさというのは今回あったと思います。そういう意味で、非常に澄んだ空気の中でよかったなという方もいらっしゃったし、比較的6時、7時で早い時間に終わるので、その後、地元の飲食店に流れて、地域経済に貢献しているという話も聞いております。そういう意味で、夏できなかつたから秋にというネガティブな発想ではなくて、よりこの秋花火というものを、どうやったら楽しくみんなで作っていけるかというふうなものに考え方というのをつくっていかなくちゃいけないかなと思っています。

【記者】 大きな大会は夏に開催されたりして、そこに行けなかった人だったり、夏は暑過ぎるといってやめちゃった人たちが、秋に川崎や、向こうの対岸の世田谷へ流れて来てくれたらと、そういうお考えもありそうでしょうか。

【市長】 どうなんですかね。いや、ちょっと、そこをどう捉えるかというのは、まだわからないんですけれども。浴衣着ている方もちらほら見えたんですけれど、ちょっと寒くて気の毒だなという感覚はありましたけど。

【記者】 ありがとうございます。

【市長】 はい。

《川崎駅前での街宣活動について》

【記者】 10月7日の日本第一党の川崎駅前での街宣についてですけれども、あの場で外国人の追放を掲げる旗が振られて、演説の中でも、川崎は外国籍の自治区なんだ、あるいは外国籍市民の方も税金を納めているにもかかわらず、それを無視する形で、我々が納めた税金を外国人に使うのはもってのほかだといった発言が、演説がなされてました。これは外国人市民をおとしめて排斥をあおるものだと思いますけれども、市長の見解はいかがですか。

【市長】 記者さんのコメントで、そのことについてどうなのかという表現は、ちょっと控えたいと思います。

【記者】 じゃあ、ちょっと質問変えましょう。人権・男女共同参画室職員も視察に来てましたけれども、どのような報告が上がって、どのように受け止めたか。

【市長】 当日、大体何人ぐらいいて、警察の状態がどうだったという話だとか、ざっくりとした概要は聞きました。

【記者】 どういう旗が掲げられて、どういう演説がなされていたかということについては。

【市長】 言葉の詳細だとか、何がというふうなことは聞いておりません。

【記者】 今、私が言った、こういう状況だったということについては、どう受け止められますか。

【市長】 いや、記者さんの見たものということについて私がどう思うのかというのは、なかなかちょっとコメントしづらい部分がありますので、控えたいと思います。

【記者】 そうすると、抗議をされた方もいましたけれども、その中には外国籍の当事者の方もいっぱいいらっしゃって、やはりこの状況に対して抗議の声を上げていたし、とても傷ついて悲しんでいました。そういう状況があったということについては、どう受け止めますか。

【市長】 どういう発言があって、どういう状況になっていたとかという、その事の詳細を私自身がちゃんと把握していると私自身思えないので、そういった意味では、現時点でのコメントは控えたいと思っています。

【記者】 そうすると、例えば、私から説明すると、その動画がアップされているわけです。

【市長】 多分、それ同じことのやりとりになると思います。

【記者】 そうじゃなくて、それが言いたいんだ。ちょっと。動画がアップされていて、その書き込みには、自分の国に帰れとか、あるいはここで発言はちょっとはばかられますけれども、ここで抗議している人たちは中国人や朝鮮人を使って工作活動を行っているんだと。中国人を殺せ。そういうコメントがY o u T u b eのコメント欄に書き込まれているわけです。それは動画を見てあおられている。つまり差別があおられている状況が川崎を舞台にして、ネットを利用して、それが世界中に発信されています。それはキル・チャイナという英語の表記で出されています。そういう状況を、まだ把握されていないのでコメントは難しいと思うんですけども、そういう事態になっているわけですから、担当課に事細かく、どういう状況になったのかというのを、市長はこれを確認されるおつもりはありますか。

【市長】 私が1つ1つの例えば集会だとか街宣活動だとかの詳細を全部見るのは現実的にはちょっとあれだと思うんですけども、しかし、これまでも申し上げたとおり、どういう活動が行われているというのは、私どもの職員も行っていますから、その中で確認されて、問題あるものについては、今後の参考にさせていただくというコメントをしてきておりますが、そのことに尽きると思います。ですから、個々のこの表現が、この何月何日の何がということに対する、コメントはすることはありませんが、全体的なもので、しっかりと見ていきたいなと思っています。

【記者】 起きていることが、やはり重大な人権侵害が起きている。過去の、市長、以前掲げられた横断幕については不適切だというふうな発言があり、人が傷つけるようなことがないことを望むということもおっしゃっているわけですね。そういう意味で、そういうメッセージを発したにもかかわらず、やはり同じような、よりひどい状況になっているという意味では、やはりその対策というか、何かを考えなければいけない状況が、より状況が大きくなってきているんじゃないか、悪化しているんじゃないかなというふうには思うんです。繰り返されているという、継続しているという。

【市長】 私どもも何もしていないわけではなくて、そういった意味では、人権全般に係る条例の準備というのは、今、進めているところでありますから、そういったものとか、あるいは、前回の検証するといったこともありますので、そういった作業は粛々と進めていきたいと思っています。

【記者】 例えば、今回、市民の方が、多くの方がああやって抗議の声を上げる、許せないんだというふうな声を上げること自体を、差別をする人たちに対する抗議であると同時に、予防策、あるいは啓発のメッセージもそこには込められていると思うんですけども、行政として、これだけ毎回毎回、同じ状況、ひどい状況になっている

ことを踏まえて、条例やガイドラインでできる範囲ではない、市長がこれまでおっしゃってきた、その啓発ですね。それは市民全体に啓発するというのももちろん必要ですけれども、当該の団体に対して、その啓発をするということというのは考えられないのでしょうか。これだけ同じことを繰り返してきているわけですから。

【市長】 当該団体に啓発ですか。

【記者】 はい。あなたたちのしていることは人権侵害ですよと、市民を傷つけているんですよと、止めてくださいというふうなメッセージを発することというのはできないんですか。

【市長】 行政の長として、法律だとか、あるいは条例に違反しているというものがあれば、それなりの対応をとらなくちゃいけないと、それは常に思っている話です。

【記者】 その違反しているかどうかということについて、やっぱり精査というか、彼らの発言、彼らの発しているメッセージというものが何なのかということを確認する必要があると思うんですけど。重ねてになって恐縮ですけど。

【市長】 それは確認させていただきたいと思います。それは全て私が全部細かくチェックするわけではありませんが、行政の中で行っている情報収集の1つとして、確認をしていくという作業というのはあると思います。

【記者】 ありがとうございます。

《臨海部ビジョンの実現に向けた海外視察について》

【記者】 すいません。前回の会見で発表いただいた、来週から行われる臨海部ビジョンの実現に向けた米国視察の件、その後、準備もなさって、市長もいろいろ、各種資料を読んだり、情報仕入れていらっしゃるかと思います。全てに注目はされると思うんですが、何か楽しみにしている箇所や期待する視察項目等がございますでしょうか。

【市長】 本当にどれも1つ1つが楽しみといえば楽しみなんですけれども。

【記者】 ここがというよりは、もう全てというところでしょうか。

【市長】 そうですね。だから臨海部ビジョンの実現のための目的で行くんですが、プラスアルファの要素として、例えば、先ほどブレイブサンダースの話になりましたけれども、スポーツ産業というところも今後の視点には、サブ的でありますけれども、おもしろい視点になるのではないかなと考えているものもございます。

【記者】 不勉強でしたが、この2か所、もしくは3か所の地点では、スポーツがす

ごい盛んなところが。

【市長】 そうですね。

【記者】 とか、ちょっと見てこようというところは、何を見てくるのか。

【市長】 例えば、今、視察先に挙がっているマディソン・スクエア・ガーデンという1つの大きなスポーツ、何というか、アリーナとしての使い方というのは、歴史的にもですし、1年間で400以上、要するに1日1回以上の公演だとかイベントが行われるということですから、フルフル回転しているわけですね。そこでにぎわいだとか、いろんなものを起こしているということですから、そういったところも参考になるのではないかなということで、臨海部ビジョンと直結するところと、そこも重なっている部分という形で、いろんな多角的な面で、それぞれしっかり勉強していきたいなと思っています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《外国人の社会福祉について》

【記者】 すいません。よろしいですか。今、川崎市内には外国人の方って、すごく多くいらっしゃると思うんですけど、その中で、外国人の方に対して、例えば、社会行政、社会福祉ですね。例えば、生活保護であったりとか。日本人、外国人は関係ないと思うんですけども、改めて、そういった社会福祉のあり方というのは、日本人も外国人もあまり区別はしないというお考えですか。

【市長】 いわゆる法律で定められているものというのは、そこは区分があるので、そこはそこで、ちゃんと法令等に従ってなので、それ以上それ以下でもないということですね。そういう意味じゃなくてですか。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 ほかはいかがでしょうか。

【記者】 すいません、関連してなんですけれども。今、出たものですから。外国人に対する、外国人は、外国籍の市民は生活保護を受ける権利がないんだというふうな意見が、意見というか、そういう言説がありますけれども、これは正しいでしょうか。

【市長】 いや、正しくないです。よろしいでしょうか。

【記者】 先ほどおっしゃったように、通知や、ある意味、法律に準じるような形で、川崎市は外国籍の市民に生活保護を適切に。

【市長】 当然です。それはもう全国一律です。はい。

【記者】 はい。適切に支給されているということですのでよろしいですね。

【市長】 はい。

【記者】 ありがとうございます。すいません。

【市長】 はい。

【記者】 いかがでしょう。

【司会】 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日の会見を終了いたします。ハロウィン・パレードのポケットークの台数につきましては、後ほど、また情報提供させていただきます。

どうもありがとうございました。

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355